

妙法寺新参詣道

原田 弘

明治二十二年四月、今の3月の期  
身甲斐郡道新田・立川間に開通し、  
道平、中野、境、田代等に駅が出来  
ました。

中野の家内郡口共進は熱心な日蓮  
信者であり、新道から妙法寺への参  
詣道がもう少し進めればと苦々考え  
ていた。この中野駅が出来たことは  
幸いであり、中野駅から妙法寺への  
近道約二キロを私財を投じて開通させ  
たのです。

門口前は妙法寺種家祖代を顕彰又  
陸奥省や宮内省あたりへ贈り物として  
なるなどのめぐるなど平素よく参詣をして  
いたと云っています。

中野駅も新田駅も今の地より新  
田・立川間の間にあったので、



田中稲荷

今、この入口側に金造庵が立っ  
ています。これは明治二十六年(一  
八九六)木造で建てられました。同  
四十四年に今のようになり、以後  
これ、大正十三年の関東大震災で倒壊  
再び改築されたものですが平成六年  
解体補強工事がなされ現在に至って  
います。なほ柱に刻まれている古い  
町名や花開きの鳥羽など狂詩を知る  
貴重な資料です。

区ではこの建物を「民俗民権文化  
財に指定し保存に努めています。  
なほ、先に述べた立川寺田んぼの

そこから道平寺村へ入り、田んぼを  
横切り(田中稲荷)の村を通って青柳新  
道に出て、現在の東北の森公園西側  
から堀ノ内村へ妙法寺に至る道です。  
明治二十九年に完成しました。



金造庵

田中稲荷に次のような資料がありま  
す。かつて毎年初平の日、村中の農  
家などから若手のもち米を道の赤坂  
を炊いて参詣を祈り、この後各団持  
ち帰り、食べたりを道に食べさせま  
す。と記述したところといふこととす  
るも正確なところといふこととす。

もう一つは稲荷のわきの宮(宮内省)が  
あり、これが、真書中に人を殺し  
ながら人形に祈る打ち込め、即ち、  
丑の御参りで、打ち込まれた指手に  
赤腫が起るといふ昔からの言い伝え  
です。いまの地は二代稲といふこと  
ですが立派です。青柳街道の金造庵  
から南へ入る、今、道邊と書かれる  
道の西側に稲が植えられ「稲道(一し  
んみちご)と書かれ、開七が出来る  
までバスの種及通行をしていました。  
この道の途中で参詣者は参拝になり  
ました。今迄の江戸時代からの道は  
なびれてしまいました。



丑の御参りの松

原田 弘 氏

株式会社東北会館・(元)日本国文学会会員・村居区文化財保護協議員・日本ペンクラブ会員